

---

# 『まじない』

五十嵐 華音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『まじない』

### 【ZPDF】

Z9913E

### 【作者名】

五十嵐 華音

### 【あらすじ】

今まで本当の『恋』に出会った事の無かった主人公華音。そんな華音が初めて本気の『恋』をする…。冬夜との出会いによつて…。華音の一途なラブストーリー。華音の想いは冬夜に届くのか?!

## プロローグ（前書き）

これは私の実話を元にしたラブストーリーです。これを読んで読者の皆さんのが何かを感じて頂けたら光栄です。

## プロローグ

煙草の最初の1本を逆さにする…。

その1本を最後まで吸わず、最後に願いを込めて吸うと願いが叶う…

昔、誰かから聞いた

『まじない』

そんな 子供だましの様なまじないでも…

すがりたいほど…

『君が好き』

## プロローグ（後書き）

最後までお付き合っていただきありがとうございました。皆さんの感謝お待ちしております。

援交

「ハイツ 3万円ね。」

「……。」

「またね？」

手に渡されたお金を財布にしまい込む。.

人は辞めろだとか言うけれど売れるものを売つて何が悪いの？

『援交』

高校を退学になり

仕事もない。

高校中退の奴にまわってくる仕事なんてたかがしれでる…

親父の相手をしてお金を貰つて

何がいけないの？

セックスは愛がなきや嫌。

初めては好きな人。

愛がなくたってセックスは出来る。

そんな奴私のもじまんといでしょ？

やつ…

あいつに出会ってまでは…

確かにそう思つたはづなっこ…。

愛なんていらない。

金があればいい。

確かに…

そう思つてたはずなのに…。

「華音またやつたの?」

「…うん。」

「華音可愛いからいつぱいくれるっしょ? 笑」

世間では「ー」という奴を友達と呼ぶのか。

私にとっちゃ ただの援交友達。

見た目そこそこの一緒にいてハズくない奴なら誰でもいい…。

友達つて何？

「ねえ華音っ今日一緒に親父捕まえ行かね？」

「……」

親父は金。

「つひだつて肝い親父相手にやられせてやつてんだから当然やうない？」

「ねえねえ？あいつ良さげやない？」

渋谷の路地裏。

近くにはラブホが数件並んでいる……。

「これは私のいわゆる援交スポット。

穴場である。

「君達いりやう？」

一人の親父が声をかけて來た。

「おじさんお金持つだから沢山出せるよ?」

親父は一タニタと笑いながら舐め回すように私達を下から上まで眺める。

そして、おもろひに財布の中身を見せてきた。

財布の中には数えきれないぐらいのお札が入っていた。

「…一人10万。」

私が言つと一ソノマコと笑みを浮かべホテルへと足を進めた…。

親父は一瞬顔を曇らせ浴室へと足を進めた。

「…汚いからシャワー浴びてくれない?」

私達も親父の後に続きホテルへと足を進める…。ホテルに入ると親父が近づいてきた。

「10万とか超ラッキーぢゃあん…!」

「華音？親父機嫌そこねね？」

関係ない。

いくらお金くれるつつたつて肝いもんは肝い。

親父が金下げる様なら他の探せばいい話だ。

んなの簡単だけどめんどくせえ。

筒抜けとか

シャワーを浴びてゐる隙に金パクつて逃げるとか

しゃべりあると親父が浴室から出てきた。

お金をくれる親父なんてそいつだけじゃない。

親父とヤリやいいだけぢやん。

んなの簡単でしょ？

「下してくれる？」

親父が自分のモノに私の顔を近づける…

「……。」

私は親父のモノを口に加え舐め始めた……。

「ううあッ……華音ちやん上手だねえ？」

「……。」

私は何も言わずモノをしゃぶり続けた。

「君はいつに来て跨つてくれる?」

「柚璃里ちゃんのおま○じ美味しいね。」

親父の顔に跨るよつてて柚璃里がク〇〇をあせる。

「あッああ……気持ちいいよ。」

親父の反応なんかどーでもいい。

早く挿れて金くれよ。

「はあッ……はあッ……」

親父は私におおいかぶさるようにして挿れ始めた

親父が体制を変える。

「生? ゴム有り?」

「生がいいなあ。中だしでいいよね?」

「おおおおお… いつかやつよ…」

親父はイキ果てもちひん中だし。

私達はシャワーを浴び着替える。

「…金。」

私は親父の前に手を突き出し金を催促した。

親父は財布から金を取り出し私に渡した。

「1、2、3……」

金を数える。

少なかつたら嫌だしね？

「……、39、40ツ。」

「……みたいよ？」

「君達可愛いからサービスだよ。」

「……。」

「またね？」

親父は最後にセーラー服のビッグドーム横になつた。

私達は金を分けホテルを後にする…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9913e/>

---

『まじない』

2011年1月15日20時35分発行